

平成24年度 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック」教員募集要項

岡山大学は、質の高い女性教員の持続性ある雇用・育成を目指し、これまで女性教員が研究しやすい環境整備のために、保育施設等の設置を進めてまいりました。これらの環境整備に加え、女性教員が教育・研究と出産・育児等を両立させ、持てる資質・能力を遺憾なく発揮していただけるよう、研究支援員配置等の支援を行ってまいりました。

これらの環境整備、各種支援策により、教育・研究に対する高いモチベーションを持続できることで、輝く女性教員が増大することを目指しています。

平成21年度科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成に本学の「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択されました。このプログラムに付随した岡山大学独自の事業として、若手女性研究者を対象に「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）」教員制度を発足させ、第Ⅰ期WTT教員が平成22年4月1日、第Ⅱ期WTT教員が平成23年4月1日、教育・研究をスタートさせております。

第Ⅲ期WTT教員（平成24年4月1日採用）の新規採用のために、下記のとおり公募いたします。

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック人事協議会

記

1. 職 種

特別契約職員 助教（特任）

2. 所 属

岡山大学の大学院自然科学系又は生命科学系研究科（大学院自然科学研究科、大学院環境学研究科、大学院医歯薬学総合研究科又は大学院保健学研究科のうちの一研究科）

3. 教育・研究領域

自然科学系研究分野（理学，工学，環境理工学，農学，薬学，医学，歯学，保健学等）のうち、今回は次の（1）～（4）の分野で各1名募集。なお、採用は、全分野で3～4名。

（1）自然科学研究科バイオサイエンス専攻 植物機能開発講座

作物の遺伝・育種学の分野において優れた研究能力を有し、作物の有用遺伝変異及び遺伝的多様性に関する分子遺伝学的研究、及び学生の教育・研究指導に熱意を持って取り組んでいただける方。博士または Ph. D. の学位取得後5年以内の方が望ましい。

（2）自然科学研究科バイオサイエンス専攻 動物機能開発講座

動物生産科学分野において優れた研究能力を有し、動物生殖生理学に関する研究、及び学生の教育・研究指導に熱意を持って取り組んでいただける方。

（3）環境学研究科社会基盤環境学専攻 農村環境創成学講座

社会科学的な方法論に基づく地域環境問題に関する研究や、農山漁村が抱えている社会経済的な諸問題に関する研究に優れた業績を有し、国内外のフィールド研究と調査実習教育に意欲的に取り組んでいただける方。例えば、農村地理学，地域経済学，農村社会学などのフィールド系の社会科学分野を専攻する方。また、関連分野を巻き込んだ学際的な議論に積極的に関与できる方。

(4) **医歯薬学総合研究科創薬生命科学専攻 創薬科学講座または先端薬物療法開発学講座**

生命科学分野において優れた業績を有し、かつ医療の観点から創薬や生命科学を探究し、とくに薬剤師教育の教育・研究指導にも熱意を持って取り組んでいただける方。

4. 採用人数

3～4名

5. 応募資格

博士の学位を有する女性研究者（2012年3月31日までに学位取得見込みの者を含む。）

6. 採用予定日

2012年4月1日

なお、本学への赴任に際しては、本学の規程に基づき赴任旅費を支給いたします。

7. 任期

2012年4月1日から2015年3月31日まで

8. 雇用条件等

1) 給与

年俸300万円（月額25万円）（基本給に諸手当相当分を含む。任期中は一定とする。）

2) 勤務形態

勤務形態については、1日6時間15分、週31時間15分勤務とするが、専任教員と同様に専門業務型裁量労働制を適用し、所定の勤務日に勤務した場合は、1日6時間15分勤務したものとみなす。

3) 福利厚生

本学の職員宿舎、保育所、病児・病後児保育施設、学童保育施設を利用できます。

厚生年金、健康保険、雇用保険、労災保険 適用

4) 中間評価及び最終評価

ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員が応募時に提出した「本学で行う研究の研究計画」に記載されている研究の進捗状況、達成状況等について、2014年3月に中間評価、2014年12月に最終評価を行う。

5) テニユア教員への採用

①上記4)の最終評価において、テニユア教員への採用基準に達していると評価されたWTT教員は、WTT人事協議会等の審議を経た後、2015年4月1日付けで岡山大学テニユア教員に採用する。

②上記4)の中間評価において、特段の実績を上げた場合とは評価された場合には、WTT人事協議会等の審議を経た後、2014年4月1日付けでテニユア教員に採用することがある。

③上記4)の最終評価において、テニユア教員への採用基準に達していないと評価されたWTT教員のうち、あと少しでテニユア教員への採用基準に達する水準であると判断される者については、WTT教員として最長1年間雇用を延長し、再評価を行う。この再評価において、テニユア教員への採用基準に達していると評価された場合は、WTT人事協議会等の審議を経た後、岡山大学テニユア教員に採用する。

※上記①～③の「テニユア教員」採用とは、評価結果に基づき、助教、講師または准教授に採用されることを意味する。

9. 研究環境等 及び教育経験等

1) 研究費等

① 研究費については、1年目、2年目にスタートアップ資金（設備費及び消耗品費として100万円）を措置する。なお、学内外の競争的資金への応募、研究組織への参加などは自由である。積極的な応募、参加が期待される。いずれの研究費も本学規程に基づき使用しなければならない。

② 研究スペースについては、所属研究科長、関係学部長と相談の上、決定する。

2) 研究サポート体制

① WTT教員は、研究を自立的・主体的に企画・立案（研究費等も含む）し、研究計画を立て、それを遂行する。WTT教員には、研究サポートを行うメンター教員を配置し、その指導・助言を受けながら、メンター教員の所属する研究会などへの積極的参加により、研究をスムーズに遂行するとともに、研究の幅を広げることが期待される。

② 出産、育児、介護等のために、サポートを希望する場合には、メンター教員をリーダーとするサポートグループ（人材登録バンク登録の技術職員、博士研究員、リサーチアシスタントなどにより構成）を結成して研究活動をサポートする。

3) 教育経験等

大学教員に必須の教授法の修得、大学教育の実践的経験の蓄積を目的とし、所属研究科長、関係学部長、メンター教員との相談のもと、学部専門教育、博士前期課程学生対象の実験、セミナー、課題研究、講義などのうち、年1～2コマを担当することができる。

10. 応募書類等

1) 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）人事協議会議長宛ての応募申込書（別紙様式1）、及び岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）」教員応募書類（別紙様式2）

※次のURLから入手できる。

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/bosyu/kyoiku/kyoiku.html>

別紙様式1 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）人事協議会議長宛ての応募申込書（応募する教育・研究領域の申し出を含む。）

別紙様式2 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）」教員応募書類

[1] 履歴書

写真、大学卒業以降の学歴、職歴、教育歴・研究歴、および応募者の研究分野などを記入する。

[2] WTT教員としての本学における研究計画（図表を含んでA4紙3～4枚程度）。次の項目を含む。

- ・提案研究課題（和文、英文）
- ・提案の要旨（和文、英文）
- ・提案研究の内容説明
- ・本提案の独創性と新規性および国内外における位置づけ
- ・本提案の学術的および社会的な重要性
- ・研究実施計画および計画の実現性

[3] これまでの研究業績（A4紙1-2枚）

[4] 研究業績リスト（特許を含む。なお、主要論文5編までの別刷（コピー可）を添付すること。）

[5] これまでの教育業績の説明および教育に対する抱負（A4紙1-2枚）

[6] 競争的資金獲得状況、申請状況およびWTT期間中の資金獲得予定

[7] 応募者をよく知る研究者からの推薦書

1名ないし2名の研究者からの推薦書（研究上の指導者や関連研究分野研究者）

2) 問い合わせ先

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

TEL & FAX 086-251-7011

E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

3) 応募に係る個人情報の取扱

応募に係る個人情報、個人情報保護法及び本学規程に基づいて適切な取扱をする。応募の事実
は非公開とするが、選考上必要な範囲において照会等を行うことがある。また、応募書類は返却し
ない。

11. 応募受付期間及び審査スケジュール等

1) 応募受付期間

日本時間で2011年7月27日（水）から2011年9月22日（木）17時まで【必着】

2) 応募書類提出先

応募書類は、下記の提出先に郵送（書留）にて送付すること。（封筒には、”岡大WTT教員 応募”
の文言を赤色で書き加えること。）

なお、受理次第、折り返し受理通知のメールを返信するので、必ず確認すること。

<提出先>

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室気付

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック人事協議会 宛

3) 審査スケジュール

① 第一次審査（書類選考）：2011年10月中旬迄（予定）

※ 選考結果は、本人宛 E-mail 等で通知します。（第一次審査合格者には、10月下旬頃に第二次審
査の日時等を併せて通知いたします。）

② 第二次審査（面接、ヒアリング）：2011年11月中旬頃（予定）

※ 提出書類に関する質疑応答を行う。また、提案研究に関するプレゼンテーションと教育に関する
業績説明及び抱負を述べてもらい、質疑応答を行ないます。

※ 面接会場（岡山大学：岡山市北区津島中一丁目1番1号）までの旅費等は自己負担とする。

③ 審査結果の通知：2011年12月下旬（予定）

4) 採用審査基準（別紙1）

応募者から提出された書類および面接、ヒアリングの結果を基に選考委員会で、別紙採用審査基準に示
す項目に沿って、審査・評価を行います。

12. その他

1) テニユア教員採用の中間評価について

WTT教員採用後、2年目の3月に中間評価を実施。（評価基準は、最終評価基準（別紙2）に準ずる。）

2) テニユア教員採用の最終評価について

WTT教員採用後、3年目の12月に最終評価を実施。（評価基準は、（別紙2）を参照。）

採用審査基準

応募者から提出された研究計画書等および面接の結果を基に、第一次審査、第二次審査を行います。

以下の項目について審査、評価し、これらの評価を基に、WTT教員として優れた資質を持ち、将来研究者、大学教員として独自に歩むことが期待できる女性教員3～4名を最終候補者とし、採用いたします。

第一次審査（書類審査）における評価項目

[I] WTT教員として行う予定の研究提案について

(1) 提案の目的と内容説明

他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。

(2) 提案の独創性と新規性および国内外における位置づけ

本提案の独創的な点、新規性が明確に説明されているか。類似研究との違いが明確で、優位性が認められる研究であるか。

(3) 本提案の学術的・社会的な重要性および科学的あるいは技術的な重要性

本提案の研究目的が達成されると、学術的にどのような波及効果が期待できるか。また将来の社会の発展にどのような波及効果が期待できるか。

(4) 研究計画および計画の実現性

本提案の実行計画は合理的で実際に実現可能なものであるか。特に、2014年3月（中間評価）の時点での実現が期待されるか、および2014年12月（最終評価）の時点での実現が期待されるか。

[II] これまでの研究業績について

(1) 過去の業績説明

他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。

(2) 研究業績リスト

既発表論文の量と質は十分であるか。

[III] これまでの教育業績、教育に対する抱負について

教育に関する経歴（学部・大学院の別、授業科目名および単位数、講義・演習・実験・実習の別、講義等の内容、教育上の観点から特に留意した効果的・先進的な実践事項・事例）および教育に対する抱負等から、大学教員としての資質は十分と判断されるか。

[IV] 競争的研究資金について

(1) WTT教員として研究を進めるための研究資金を競争的資金から独自に集めることが期待できるか。

(2) 科学研究費等の研究資金獲得のための申請書作成能力は十分にあると考えられるか。

[V] 推薦書

当該研究者の研究立案能力および研究推進能力は評価に値するものであるか。大学教員としての将来は期待できるか。

第二次審査における評価項目

(1) 第一次審査の評価結果、および提出書類に関する質疑応答

(2) 面接における質疑応答、研究内容に関するプレゼンテーションと教育に関する業績、抱負、およびそれに対する質疑応答

(3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力

自分の考え、主張を明確に表現でき、説明できるか。学生の教育にも支障はないか。

研究内容を他分野の研究者、専門外の者にもわかりやすく説明できるか。

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度における 最終評価の審査基準について

ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員評価委員会は、WTT教員に採用後、二年目の3月に中間評価、及び三年目の12月に最終評価を行なう。

最終評価においては、下記の審査基準に則り審査を行い、その結果はテニユア予備審査結果として、WTT人事協議会に報告される。

最終評価（テニユア予備審査）の審査基準

それぞれの研究領域において、下記に示す資料（その1、その2）、期待される成果（研究論文、学会発表、研究費採択など：補足1、2）、及び面接（プレゼンテーション、質疑応答など）を基に行われる総合評価の結果、テニユア教員としての資質に優れ、将来性が期待できると判定されること。

資料 その1. WTT教員から評価委員会に提出された資料（[I]～[VI]）

- [I] WTT教員として実施した研究について
- [II] WTT教員期間中の研究業績について（補足1）
- [III] WTT教員期間中の教育業績について
- [IV] 競争的研究資金への応募実績、資金の受け入れ状況について（補足2）
- [V] WTT教員期間における特記事項について
- [VI] WTT教員としての総合評価等について

資料 その2. メンター教員から評価委員会に提出された資料（[I]～[III]）

- [I] WTT教員期間中の簡単なメンタリングの経過報告書及び研究、教育、研究資金等に関する評価
- [II] WTT教員に関する特記事項等
- [III] その他、大学教員、一般社会人としての行動規範遵守等

補足1 研究論文、学会発表について

- *第一著者で、Originalityに富み、Impactの高い論文が、最終評価までに少なくとも1編あることが望ましい（研究内容は、WTT教員期間のものが中心）。特に該当する領域で、Impactの高い論文と評価されるものであれば、Revise中のものでもこれに含むことができる。
- *平均年1編の論文（共著も含む）が公刊されていることが望ましい。
- *学会等における発表は、平均年一回はあることが望ましい。
- *国際会議、シンポジウムなどへの積極的参加が望ましい。
- *海外派遣助成金等への積極的応募が望ましい。

補足2 研究費について

- *積極的に外部資金（科学研究費等及び財団等の研究費）に応募し、WTT教員期間中に少なくとも1回は研究代表者として外部資金獲得があることが望ましい。